

宇工高同窓会々報

同窓会長挨拶

同窓会長

岡田 義治



同窓会員の皆様には、ご健勝にお過ごしのことと申します。一昨年より会長を務めさせて頂いております。この間、学校と連携して、平成二十三年度に移転・開校する「科学技術高校」への円滑な橋渡しの役割を、役員の皆様と共に果たす準備を始めました。

①同窓生の最大の関心事である「宇都宮工業高校」の校名を残すこと。卒業生が歴史的に二分されないよう理解を求めて行きたいと思っております。

②「一人は一校を代表す」という教訓を残した、初代校長・安美賀先生の記念碑を、新しい学校に移設すること。同窓生の「心の原風景」として、存続が必要だと思っております。

③宇工高が京町に在ったことを示す、八十七年間の歴史の証を、記念公園（ポケットパーク）として残すこと。

これらの主要なことは、今から各方面に働きかけ、理解を求める努力が必要です。ほかにも、校歌、記念碑、記念樹、同窓会館などについて、様々なご意見があります。また、歴史を含め「学校の記録等」を残すことも、同窓会の役割の一つと考え、すでに作業をスタートさせました。もちろん、同窓会の通常の役割である、同窓会名簿や同窓会基金の管理、後継者の育成等についても、的確な対応を心掛けて行きます。

会員の皆様には、今後とも率直なご提言、ご理解と、ご

支援を頂きますようお願い申し上げます、挨拶といたします。

ごあいさつ

学校長

岡村 悦夫



同窓会の皆様には、本校の教育振興と在校生のために特段のご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。とりわけ本年度は、定時制が定通総体全国大会に6部が出場することに伴いご配慮賜りましてありがとうございます。おかげさまで卓球部がベスト8に入賞しましたことを報告させていただきます。

本年、高校改革の一貫として、県立高等学校再編後期実

発行所
宇都宮市京町9番25号
電話 (028) 633-0451
宇都宮工業高校
同窓会事務局

行計画が決定されました。また、12月下旬には、今後の高校教育の方向を定める学習指導要領案が発表になり、パブリックコメントにかけられた後、本年度内に告示がなされる予定です。こうした動きを踏まえながら、新たな宇都宮工業高校の開校に向け、新校設立準備委員会が設置され、校名や教育内容などを検討して参ります。そんな中、文科省と国土交通省による「地域産業の担い手育成プロジェクト」事業に、土木・建築・インテリア設備・電気・電子の5科が、今工高・真工高と共に建設業協会のお世話になりました。建設業協会のお世話になりながら、建設業仕事説明会・生徒の企業見学・現場実習・企業技術者による授業・教員の企業実習・安全教育に関する共同研究に取り組みます。会員の皆様のお一層のご支援・ご指導をお願いします。

インターハイ連続出場

バスケット部顧問

千村 隆

平成20年6月22日4時05分
栃木市体育館で宇都宮工業高校バスケットボール部が念願の3連覇を達成し埼玉インタ

ーハイの切符を手にしました。優勝した瞬間観客席から7色のテープが投げ入れられ歓喜に渦に包まれ会場は熱気と興奮でしばらくはその場を離れる事ができないほどであった。3連覇が伝統校そして強豪校として認められるのは誰しもが分かっていることだからである。選手が本当に良く頑張りました、学校・同窓会・OBの方々にもご支援を頂き感謝の気持ちでいっぱいです。

インターハイは強豪大分舞鶴に逆転負けはしましたが次に繋がる試合でした。11月に行われた全国選抜大会県予選会も3連覇を達成し12月29日まで3年生はバスケットボールをプレーできたことは素晴らしい経験と財産になった事と思っております。



これからも毎日一生懸命練習に励み宇都宮工業高校の名に恥じないよう努力を重ね10連覇を目標にチームのスローガンでもある常に全力真つ向勝負で頑張ります。これからご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

ロボコン世界大会

生産システム研究部

電子機械2年 杉本 一磨

今大会に世界23カ国が参加して行きました。7月から全国22会場ですべて予選会が始まりました。8月に行われた関東大会には高専や自衛隊も含め、100チームが参加していました。正攻法で挑み、すべて



の部門で、優勝しました。

日本代表決定戦前に赤外線センサーでコース壁を正確に認識しながら走行する最速マシンを完成させました。全国

の地区大会から精鋭31チームが決定戦に進出して行きました。3位までが世界大会に出場出来ます。期待のロボットが順調に完走し、大差を付け「優勝」。自由製作部門でも廃油から石鹸を作るロボットが高い評価を得て「優勝」、3チームが世界大会の出場権を得ました。思い返せば6月から一日も休んでいません。

11月の世界大会では一回戦で上位はスエーデン、シンガポール、マレーシアと本校生産システムの5チームに絞られました。2回戦で3位入賞を試みましたが、そのまま「4位」「5位」に。さらに、翌日の表彰式では自由製作部門も「7位」に入賞。全員が入賞してほっとしました。2009年は韓国大会。頑張ります。

第60回春季関東地区 高校野球大会出場

野球部前監督

建築科 大森 一之

春季栃木大会での5年ぶり15回目の優勝、ノースードから本当によく成し遂げたなどという感じである。高校野球のトーナメント「一発勝負」の

中で、粘り強く試合巧者ぶりを発揮した大会でもあったように思える。この県大会は、皆で頑張った優勝であった。関東大会は山梨県で開催された。相手校は木更津総合高校（関東大会優勝）である。個人個人の「力」は、かなり上であるがどんな試合ができるか楽しみであった。「粘りとチーム力」は負けていない。「夏の選手権に繋がる大会にしよう」と試合に望んだ。し



かし思った以上に相手の投手力、打力共にレベルが高く、宇工も食らいつき点を重ね、一時は接戦にまで持ち込んだが、あと一歩及ばなかった。選手は「勝負には負けたが、戦いには勝った」これらの事を体感し、自信と手応えを感じた試合でもあったように思える。

今回の関東大会は、強豪校、名門校と言われているチームが数多く出場している中で、宇工の18回出場は、諸先輩方が築き上げてきたすばらしい歴史であり、胸を張れた事を大変嬉しく感じたことを思い出す。応援していただき本当にありがとうございました。

高校生ものづくり コンテスト全国大会

土木科教諭 鈴木 良孝

昨年度より橋梁模型製作から測量競技に変わりました。測量競技は三人がチームとして競技に取り組み、グラウンドに五角形に設置した測点の角度と距離を測る外業とその観測結果を基に計算して座標

と精度を競います。今年度は、県予選で優勝、そ

して関東大会では僅差で優勝でき全国大会へ出場することができました。全国大会は大阪で行われ各ブロック予選を勝ち抜いた9チームと開催地1チームが参加し競技を行いました。



会場はこれまでと違った雰囲気、ブロック予選を勝ち抜いたチームということでも強そうに見える、かなり緊張していました。実際の競技では、外業ではこれまで練習していた測点間の距離が長く、測角と記入を2人で行っていたこれまでとちがいが、競技では走ってはいけないうこともありタイミングが合わず、チームワークを十分発揮できず、そして緊張もありこれまでにないミスもしてしまい良い成績を残せず三人ともがっかりしていました。しかし、全国大会まで出場できたことは誇りです。次年度も関東大会そして全国大会に出場してもらいたいです。

宇工定時制は今

定時制教頭 軽部 幸治

定時制教育を取り巻く状況は、年々その様相が複雑化し、生徒たちは様々な進学動機をもって入学してきます。勤労

青少年の教育機会の確保という役割に加え、様々な理由で定時制高校への進学を余儀なくされた者の「学び直しの場」としての役割も重要になって

きました。夜間定時制高校の役割と価値は、そんな生徒たち一人ひとりに目を掛け、十分なケアのもとに、将来、生徒が社会的に自立する力を身につけさせることにあると考えております。

現在、本校定時制では「きめ細やかな個に応じた生徒指導体制の整備」に努めております。全職員がすべての生徒について理解を深め、全職員が一枚岩となって指導にあたるようにしております。学習に関して守るべきルール等も、生徒に浸透し、お陰様で落ち着いた学習環境が整いつつあります。過日、学校評議員の方々に、授業を見学していただきましたが、ほとんどの生徒が仕事をしながら、夜遅くまで熱心に頑張っている様

子に、お褒めの言葉をいただきました。生徒たち自身の頑張りと関係各位の御支援により、本校定時制も少しずつ確かな成果があがっていると自負しております。

運動関係では、県定通総体において、団体で出場した五種目すべて（軟式野球、サッカー、柔道、男子バスケットボール、卓球）で優勝、個人は二種目（卓球、陸上競技）

で全国大会への出場権を獲得、計六つの部で全国に出場するという快挙を成し遂げました。さらに卓球部は、全国大会でも、見事に団体戦ベスト8入賞を果たしました。この嬉しい誤算に、全国出場の予算が追いつかないほどでしたが、

同窓会から、多大な金銭的御支援をいただき、何とか全国出場が適いました。この場を



学校公開

お借りして、同窓会の皆様には深く感謝申し上げます。

文化活動では、県定時制通信制生活体験発表会に、山北峻介君（二年）が本校代表で出場しました。全国大会出場は逃しましたが、第四位で優良賞を受賞しました。

また、とちの環県民会議主催の「エコポエム」で、小堀貴裕君（一年）が、全日制の二名とともに、特別賞を受賞し、とちの環県民会議会長の福田富一知事から表彰を受けました。その作品は、本人の朗読で収録され、ラジオの栃木放送で放送されました。

その他、第二種電気工事士試験において、八名受験中五名が合格するなど、資格試験取得等でも頑張っております。昨今の経済情勢の不透明感

は、私たちの生活に不安をもたらしております。今年の卒業生の進路状況を見ると、進学者は、大学進学をはじめ全員が進路を決定しました。しかし、就職者は、幸い内定取り消しはないものの、まだ未決定者がいるなど厳しい状況です。生徒は本当によく頑張っておりますので、今後も様々な場面での皆様の温かい御支援をお願い申しあげ、定時制の報告といたします。

平成20年度の進路について

進路指導部 蓮田 裕一

1 過去最高の就職試験合格率

本年度の求人企業社数は昨年の833社から775社（平成20年12月末）に減少しました。世界的な不況の影響を横目で見ながら3年生の就職指導を行ってきましたが、就職一次試験では昨年の91%を超える95.3%の生徒が合格しました。卒業生の方々の実績と産業界からの高い評価の賜です。期間従業員や派遣社員の大量解雇のニュースが報道される中、10月中旬に本校の就職関係はほぼ終了しました。

2 指導体制の確立が望まれる進学

本年度の進学については大学に63名、短大・大学校11名、専門学校に27名がほぼ決定しています（図2参照）。10年前は専門学校進学者が75%を超えていましたが、現在は4年制大学を主体とする進学に完全に変貌しています。大学からは工業高校でのもの作り体験を高く評価し、入学後の活躍を期待しています。早い段階で進路を決定し、大学・短大・専門学校のように入路別・コース別の導入やカリキュラムの整備など、進学指導体制の確立を行い、そのコースやカリキュラムに添った補習を行っています。就職と進学双方の選択肢をより充実することで本校生徒の進路希望を実現したいと思います。

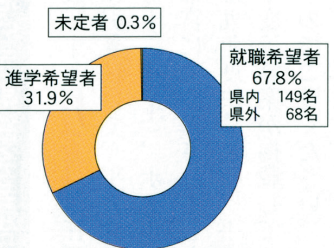


図1 就職者数と進学者数の割合

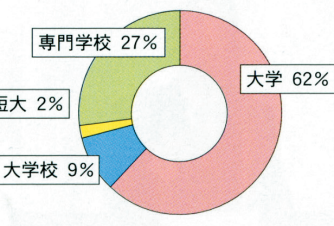


図2 進学内訳

